

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第10回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和6年8月6日（火）13：30～15：30

場所：川崎信用金庫本店2階大会議室

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアマネージャー

幹事 川崎商工会議所 向田担当部長

川崎市PTA連絡協議会 浦山会長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 荻野課長

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 鈴木氏

富士通株式会社 池田シニアマネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

1 開会

2 報告

報告第1号：かわさき飛躍祭の開催結果について

報告第2号：市制100周年記念式典の開催結果について

報告第3号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について

報告第4号：協賛状況について

報告第5号：実行委員会第5回総会及び交流会の開催について

—事務局より資料1～5を用いて説明

2 議事

議案第1号：公共空間を活用した賑わい創出プロジェクト

—事務局より資料6を用いて説明

内藤委員：雨天の時のイベント開催はどのようになるのでしょうか。

事務局・長瀬係長：荒天の場合は中止、もしくは、建物内のコンテンツもあるので、縮小開催する形を考えています。

浅岡幹事長：第3庁舎では何かやるのでしょうか。

事務局・長瀬係長：1階ロビーにてコンテンツを用意する予定です。外だと電源を用意するのが難しいため、電源が必要なコンテンツは第3庁舎での実施を考えています。

内藤委員：今回は市役所通りを6車線全てですよね。ここでイベントを開催するのはすごい画期的ですよね。これは100周年だけのイベントではなく、毎年恒例の祭りになっていくようにつながればいいなと思いました。予算次第ではありますが。

小池事務局長：我々としても、100周年後のその先につなげていくという、100周年のレガシーについても重要視していますので、今後はどうつなげていくかというのも含めて今回やってみたいと考えてございます。引き続き検討してまいります。

浅岡幹事長：当日はバスについても迂回することになるので、その辺りは市民の方々にもご理解ご協力いただくことが必要ですね。

事務局・長瀬係長：はい。各バス停にも案内を貼ったり、交通規制のお知らせについてはひと月くらい前から様々な所に貼っていく予定です。また、ある程度広域にする予定で、幸区の方からも川崎駅前になるべく車で来ないように、規制について周知する予定です。

荻野委員：人が集まりすぎてしまった際の入場規制みたいなものは行う予定でしょうか。また、ご高齢の方や障害のある方の移動についての配慮は何か検討されていますでしょうか。

事務局・長瀬係長：来場者数が想定以上となった際は入場規制をするといった計画は作る予定です。また、高齢者や障害者への配慮ですと、緊急車両が通るスペースは空ける予定ですので、例えば車椅子の方であれば状況に応じてそこを通過していただくという事は想定されません。

浅岡幹事長：警備態勢はどのような感じですか。

事務局・長瀬係長：交通規制要員と雑踏警備については現在必要人数を積算中でして、要所要所に必要数を配置する予定でございます。

浅岡幹事長：人数をかければかけるほど予算がかかるので、その辺は兼ね合いなんだろうと思いますが、どこまでケアするかですよね。100%カバーするのは、これだけ会場が広いので難しいとは思いますが。

事務局・長瀬係長：例えばマラソン大会とかですとボランティアさんが沿道警備とかしたりしていますが、本イベントについても少しボランティアさんの力を借りつつ、あとは我々市職員の直営を考えています。また、今回参加される神輿の団体の方からも協力いただける人員がおりますので、そういった方々の自主警備なんかもしていただきながらという形になります。

す。お金かけて何人も警備を雇うようなやり方ですと、今後、持続出来ないと思いますので、なるべくそうならないように調整したいと思っています。

小池事務局長：昨年度の来場者は4万人ほどと算定していますが、観覧面として歩道の方に集中してしまったというのがあるので、今回、コンテンツ増えますけれども、両側6車線全て使えるので歩く空間として昨年よりも広く使える部分が出てくるかなとは思っています。

荻野委員：休憩とか、救護とか、その辺りの場所は何カ所くらいになりますか。

事務局・長瀬係長：救護については、本部に来ていただければ対応する予定です。

休憩場所は、芝生エリアや、飲食向けではありますが椅子やテーブルが多く置かれるので、そういったスペースは多くあります。もし具合が悪い方がいらっしゃれば、本庁舎の中は使えますので、そういった方々をご案内する事は出来ます。

小池事務局長：「かわさき飛躍祭」の時も迷子が結構いたので、本部機能は充実させる必要があると思っています。いただいた意見を踏まえてやっていきます。

浅岡幹事長：他にはいかがでしょう？

そうしましたら、意見をご参考いただきながら詰めていただいて、進めていただければと思います。

議案第2号：Colors, Future! Summit 2024について

—事務局より資料7を用いて説明

浦山委員：広報がすごく大事だと思います。市内には150万人のPTA会員さんがいらっしゃいますし、また、教育委員会や学校経由で子どもたちにチラシを配布すればそのご家庭にも波及するので、ご検討いただければと思います。

事務局・荻本係長：ありがとうございます。現在、教育委員会からは紙媒体の配布物は基本的にだめとなっていますが、ご調整いただきまして、これが最後になりますが、今回のタブロイド紙を子ども向け版に内容を変えまして、A3二つ折の一枚のものを11万部発行つくって、それを各小中学校に配架する予定ですので、小中学生の皆様にもこの三日間は来ていただけるように、学校を通じて広報させていただきたいと思っております。

浦山委員：教育委員会の方では情報配信システム「ミマモルメ」の一斉配信を行っていて、50MBほどのデータを添付できますので、そういった手法もいいかと思います。

向田委員：昨年、聞いてみたい登壇者のタイムテーブルが被っていたり、スケジュールが合わなかったりして聞けなくてすごく残念でした。今年は「みんなの川崎祭」や3会場のスケジュール調整などがあって難しいとは思いますが、できる限り多くのセッションを聞きに行

けるようにご配慮いただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

浅岡幹事長：これはオンラインからの事前登録制ですか？

事務局・荻本係長：はい。オンラインからの事前登録制の予定です。登録可能時期ですが、早いうちから登録していても、皆様のご予定が変わったりしてしまいますので、1カ月前を目途にオープンにしていきたいと考えてございます。

向田委員：複数のイベントが同時期に開催するので、タブロイドとか色々広報していても情報過多になってどれを見ればいいのか分からなくなるような、わかりやすい広報にさせていただければと思います。

事務局・荻本係長：今回配布を考えているタブロイドの中にもマップを入れて、どこに何があるのかというのは分かるようにしたいと思っております。10月号の「市政だより」の特集号でもこれらのイベントを掲載させていただくんですが、そちらは逆にペルソナ設定して「こんな回り方がいいよ」みたいなモデルルートのような使い方を考えています。

大西委員：広報のところですが、昨年開催時は初年度という事で手探りの部分もあったと思います。割と集客は厳しく、イベント開催自体を「知らなかった」というお声もかなり伺ったな、という印象がありました。それを踏まえて、今回は広報戦略としてどの部分を変えているのかという点を伺いたいです。また、色々な制作物をつくられている説明をいただきましたが、例えばホームページやタブロイド紙を制作したとして、それを市民にどう届けるかということが重要だと思いますが、どのような考えでしょうか。

事務局・荻本係長：去年はここまで精緻に組み立てられていなかった部分がありましたので、タブロイドであれば10月から配架し、事前に皆様に情報を取っていただけるようにすることと、また、直前になればラジオやCMをサミット側の費用で出ささせていただいて、直前の集客を図ることも考えています。事前に出来るものは早めにやっていきますし、直前には具体的に内容が決まったものをフューチャーしたCMを打っていくという戦略です。

また、市民に届けるということにつきましては、10万部タブロイドをどこに配架していくかというのは、これから組み立てていきますが、各イベントの主催者が持っているアセットとアウトリーチの先がありますので、それぞれに配架いただくことを考えています。

あとは、川崎市のアセットとして例えば児童施設にも置かせていただくなど、子ども向けの施設については事前に配架して、お手元に取っていただけるような事はアウトリーチとしてはやっていきたいと考えてございます。

大西委員：ありがとうございます。もう一点、意見です。「かわさき飛躍祭」の件で、弊社かわさきFMにも感想やご意見が届きましたが、その中で「ブルーインパルスが飛ぶこと以外よく分からない」とか「何か」をやっているっていうのは理解が出来たんだけど、結局それはどういう内容か詳細がよく分からなかった」というご意見や、イベント開催を「知ら

なかったのももう少し広く周知してほしかった」「知ってたら行きたかった」という方が一定数いらっしゃいました。割とご高齢の方からのお声が多かった印象です。わかりづらさというのは、特にご高齢の方には配慮が必要であろうと感じています。案内チラシなど配架先であったりとか、ターゲットに合わせた訴求の仕方を変える、というのはぜひ事務局側でも考えていただきたいと思います。

浦山委員：先程のモデルコースの話がございましたけれども、例えばこんな人はこんなコースがいいよとか、モデルコースに少し色づりがあったりすると、見ててすごく楽しいんじゃないかなと思いましたので、ご検討ください。

森委員：これだけ色々なイベントが盛りだくさんだと、事前の情報を把握せずに来場されると自然とにぎわっている方に流れていってしまい、会場に人を呼び込むことはかなり難しいと思われるので、事前周知をどのように行うかという点を特に意識していただきたいと思います。

また、昨年、私どもが実施した際の反省点として、内容が堅すぎると多くの方に興味関心を持っていただけないので、そういった観点を踏まえてテーマ選びについても検討していただければと思います。

昨年は初めての対応ばかりで事前の準備が十分にできなかったと思いますが、今年はそのようなことがないように、また、限りある人・物・金を最大限有効に使った中で企画していただければと思います。

向田委員：こういったイベントは、取りあえず川崎に行けば面白いイベントをやっているということで来る方が多いと思いますので、「みんなの川崎祭」もそうですが、その日来た方にプログラムが分かるような案内、看板などがあるといいかと思います。

事務局・荻本係長：昨年度も受付にはセッションのプログラムなどを掲出していたので、今年には更に道路上での掲出の仕方や、どこで何をやっているのかといった案内看板などについても検討していきたいと思います。

小池事務局長：今年はみんなの川崎祭と連携しますので、そこに来た方々の興味を引くように、また、事前受付だけでなく当日受付についても検討しながら、来ていただいた方にカンファレンスを楽しんでもらう事も考えていきたいと思っています。

浅岡幹事長：来場する人全員に内容を全てお伝えするというのは難しいと思うので、なにか一つでも興味を持った人が回遊出来るようなチャンスを得られる、現地での広報っていうのも非常に大事なかなと思います。

たまたま行ったけれども、「これ面白そうだね」って思えるような何か仕掛けがあるといいと思いますので、そういった工夫をしていただければと思います。

内藤委員：大切なのは行ってみたいと思うようなインパクトとテーマなんです。「こんな事や

るんです」、「行ってみたら楽しいよ」という告知を駅の色々な広告などに掲示できると面白いと思います。

小池事務局長：いただいた意見は広報で色々検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

浅岡幹事長：他にはよろしいですか。それでは出たご意見を参考にいただきながら進めていただければと思います。

議案第3号：音楽プロジェクトについて

—事務局より資料8を用いて説明

浅岡幹事長：イベントの方向性は特に変わってはならず、ハードの部分の予算の組み方が変わったということですが、具体的にはどの部分でしょうか。

事務局・荻本係長：当初、9メートル幅の屋根と鉄を使ったデザイン性にこだわった装飾を考えていましたが、そこは全カットいたしました。

整備する部分としては、植栽帯を土から全部一回取って芝生化して、新たな植栽を植えます。今回のプロジェクトの中では、このステージとその後ろにある新しい植栽帯の整備を考えています。

浦山委員：市内ではミュージカルを頑張っているチームがあったり、ダンスを頑張っているチームがあったり、音楽と言っていいのか分からないんですけども、そういう広がりがあると思うんですね。そういう人たちとか、そういったジャンルなんかも対象としてという事でいいんですよね。

事務局・荻本係長：もちろんです。それこそ、幼稚園の発表会からとかですし、今おっしゃったようなものまで披露できる場として活用していきたいと考えています。

小池事務局長：地域の色々な方に使っていただきながら、認知度、共感を得ていきたいと思っています。幅広に使えるように考えました。

浅岡幹事長：その辺の管理は、プロジェクト推進協議会でやってくんですか。

事務局・荻本係長：はい。

内藤委員：本プロジェクトは、音楽プロジェクトといいながら、ステージづくりにすごい観点がいつているような気がするんです。要は椅子と演奏者がいれば、そこでステージは出来るんです。コンテンツを充実させたら、クラウドファンディングだってそれに共感をしてく

れるような気がするので、物理的なステージではなく、ソフト面をもっと打ち出していただいたほうが良いような気がします。

新百合ヶ丘でもイベントをやっていますけれども、あのタイルの上でみんな演奏しているんです。そうすると、いいお音楽だったら、どんどん人が集まってくるんです。まずはコンテンツを詰めてからハード整備という順番なのかなって感じがしました。

小池事務局長：そうですね、まさにそういう形だったんで、本当にシフトしてミニマムスタートでいきましょうよって話で今見直しさせていただいています。このキラリデッキが、喫煙所や植え込みがあったりして、初期投資としてどうしても必要な部分があるので、その部分は、ある程度、実行委員会の方で持ちながら、運営と維持管理と、イベントの作り込みだとか、そういったところに協議会のメンバーにはしっかりと注力していただきたい。そういう思いがあって、今回、見直しをさせていただきました。ありがとうございます。

浅岡幹事長：結構、箱をつくっても使われないというのもありますしね。

内藤委員：そうなんです。朽ち果てていくだけなんで。

小池事務局長：いい方法に転換をしていきたいと思っていますので、今回このようなやり方をお示しいたしました。

森委員：先ほどの内藤委員のご意見にある賛同します。前回のご提案はかなりの予算規模でしたが、今回は現実的であり、スモールスタートという進め方も望ましいと思います。ただ、現段階においてコンテンツが提示されていないので、将来に向けていったいどのように展開されるのかイメージを持ってません。それがおそらくクラウドファンディングの結果にもつながっているのだらうと思われ、そこは少し気になるところです。

私は実際にこの場所に行った事がないので、どれくらいの通行量があるのか、どれくらいの集客が図れるのか分かりませんが、他のプロジェクトやイベントと比べて1,500万円の予算は結構なインパクトだと思います。投資効果が見込まれるのであれば、2分の1ではなく100%負担という事も十分あり得るかと思うのですが、投資効果が見込まれないとするならば、たとえウッドデッキだけだとしても先行投資としてあまり意味がなかったというように見られかねないので、その点は難しいところだなと思います。

小池事務局長：確におっしゃるとおりで、今までこのプロジェクトメンバーもハード整備をどうするかってことだけすごく考えていまして、やっと方向性が見えて、これからしっかり作り込みをやっていこうかなってところにシフトが出来そうな形になっています。

今回、一度、もし時間があつたら見ていただければと思いますけれども、なかなか植栽も維持管理が必要な状況になってたりして、高津区としてもこのキラリデッキを大きくリニューアルしていきたいというところで、高津区と我々の混合的なプロジェクトになっているという事でございます。

先程申しましたように、緑のところは高津区の方で芝生などの整備をし、我々がコーナ-

のところのステージをつくったりして、そこを一体的に整備する事で、憩いの空間も含めて、いい空間をつくっていききたいというところもありますので、イベントだけではない、若者たちがここでデートして、ランチして、みたいな事も出来るような空間をつくっていききたいというところもあるので、デッキを整備して憩いの空間をつくる事は、公共的にもいい効果が得られるものだと思っておりますので、一旦、ミニマムではあるんですが、そういったところの整備はしていきたいなと思っております。

内藤委員：音楽系の大学があったら、練習の場にしてもいいのでしょうか。

小池事務局長：そうですね、洗足音大さんとの連携なども考えています。

内藤委員：要はそういう部活があって、ここで練習してもらって、これってすごい演奏会にしてみたらいい練習の場じゃないですか。そういうふうな部分をどんどん入れていくといいと思います。

あとはこれが、エリアマネジメント団体があるのか分かりませんが、要は定期的なマルシェをやってくとか、人が集まるような場をつくるという事と、演奏するような事を出来るだけ仕掛けていっていただければと思います。

小池事務局長：現在、協議会も少ないメンバーなんですけれども、協力団体という事で、本当に地元の方ともこれから一緒にやっていかなきゃいけないというところでもありますので、そういう理解も得るためにも使い方に関しては色々、地元の方も使えるというようなところも踏まえてやっていきたいと思っています。

浅岡幹事長：ここは通路との関係性ってどう整理出来るんですしたっけ。デッキの中は、特に通路ではないっていうことでいいですか。

事務局・荻本係長：デッキ上は通路なんですけれども、イベント時には何メートル取りましようというルールがありまして、有効距離を取った上で、逆にイベントをやらないと許可が出ないという形になっています。

浅岡幹事長：やはり、許可が必要になる場所なんですね。だから、催しを発生的にやるというわけにはいかないと。運営側に申請をして、許可を得た上でじゃないと出来ない。

事務局・荻本係長：そうですね。なので、ゆくゆくは警察の方も、ある程度まとまって、こういうふうにするよって言えばいいよって言うんですけれども、最初の頃は、一個一個ちゃんと手続を取ってくださいという形で、最初は形式的にやらないといけないので、いきなり、ぽっと出の、フラッシュモブ的に利用するのは出来ません。

浅岡幹事長：よくあるのはストリートミュージシャンが使えるような、この区画だったら登録さえしておけば、一応、バンドで使えるよとかって、そういう運用の仕方もあるでしょう

し。通路となるとなかなか法的な解釈も難しいとは思うので。

デッキをつくって運用されないというのが一番よろしくないので、実行委員会がある程度のグリップを利かせながら、ぜひこの企画運営の協議会さんには頑張ってくださいと思います。1,000万単位のお金を出すわけですから、ここは継続して維持出来るようにという事で、その辺の協議はしっかりしていただきながら進めていただくという事でいかがでしょうか。

浦山委員: 市民活動の中でたくさんそういう音楽系やダンスだとかやってらっしゃるチーム、サークルもあつたりするんですね。そういったところ団体もけっこう数があると思うんで、アプローチいただけるといいかなと思います。こういう巻き込み型っていうのは、こういうものに一番適切だと思うんですよ。

向田委員: 私どもは、経済労働局さんと組んで川崎の名産品のイベントを溝の口で秋にもう十何年やらせていただいていたしまして、私が担当していた十何年前の設立当初は、この広場でまさしく地元のストリートミュージシャンや太鼓の団体さんとかが、3分おきくらいに10組くらい、ここで許可を取って、ずっと高津区役所さんとやらせていただいていた。特にここは人の往来が多いので、すごい皆さん見ると思うんですよ。何も知らずに通った方も見ると思いますし、デッキが出来れば、すごい、何だろうってなるでしょうし、先程言われたストリートミュージシャンとか市民団体の方々も、どこに連絡すれば使わせてもらえるんだろうっていうお話には絶対なると思うんですよ。それを幅広く、またハードルを低くして活用してもらえるといいと思います。

また、例えばこの先にKSPさんに行くバスの乗り場とかも下にあつたりしますが、その辺とかに行きたい方の邪魔にならないかなとは思いました。

事務局・荻本係長: 先日、警察立ち会いのもと位置出しをしまして、問題ない事を確認させていただいております。

浦山委員: 利用申請はふれあいネットからはできるようになるんですか？

事務局・荻本係長: ふれあいネットは利用できないと思うので、独自につくっていく方向になると思います。

浦山委員: ふれあいネットを使えるようにするには公共施設扱いとするしかないですね。そうなる川崎市が中心になるしかなくなってしまいますね。

事務局・荻本係長: そうなんです。

浦山委員: 直接、警察に許可をとるようになると、参加する人は結構ハードル高いのかなって思いました。

事務局・荻本係長：警察とのやりとりはこの協議会が全てやります。

大西委員：質問です。例えばこういうデッキだと、夜中を通して音楽、公演をしようと思えば出来る場所だと思えますが、そうすると今度は騒音の問題なども出てくるのかなって思うのですが、利用時間の制限はあるのでしょうか。

事務局・荻本係長：警察からもその点については言われていまして、夜間についてはそもそも立入禁止にしたほうがいいとかって言われているので、何時まで音がしていいかっていうのは地元調整の中で考えなければいけないと思ってます。ラゾーナも例えば土日だったら20時までだと決めていますので、その方向性は出した上で、利用規程の中で開放時間というのを設けていきたいと考えています。

浅岡幹事長：他にはいかがでしょう。よろしいですかね。

様々なご意見出ましたんで、この辺、協議会と詰めていただいて、運営管理や実施するイベントについても進めていただければと思いますので、よろしくお願い致します。

議案第4号：まんなかフェス2024について

—事務局より資料9を用いて説明

浅岡幹事長：前回の幹事会の時に懸念がありまして、パレード自体が出来るのかどうかなんだと。出来ない場合については、負担金支出が難しいという話だったんですが、早急に警察と協議をしていただいた結果、ルートを変更してほぼ出来そうな見込みになったという事で伺っております。

その辺、前提としてご質問・ご意見ございましたらお願いします。

内藤委員：無事、警察協議が終わってよかったです。前回聞いた時は実現不可、もう可能性はゼロに近いと思いましたが。

浅岡幹事長：まだ確定ではないです。警備計画を承知いただければ、承認出来そうといった状況です。警察協議はどこまで進みましたか？

事務局・塩沢職員：警備計画はこれから出す事にはなるんですけども、この内容で出してくれば大丈夫というところまで進んでおります。

浅岡幹事長：予定どおりという事でよろしいでしょうか。何かご質問・ご意見あれば。よろしいですか。

そうしましたら、パレードの方は着実に進めていただいてという事でよろしく申し上げます。

議案第5号：子ども力で川崎の未来を変えるプロジェクトについて

—事務局より資料10を用いて説明

浅岡幹事長：ありがとうございます。前回から特に変更点というのはなくという事ですか？

事務局・金井課長：そうですね、今の取組や進捗をご報告させていただきました。

浅岡幹事長：資料にもありましたが、お子さんの参加がちょっと寂しいかなというのはあるので、広報の仕方に、てこ入れが必要なのかな感じました。

事務局・金井課長：田園調布学園大学も全くチラシが配れないという事で悩んでいらっしゃいましたので、そこは麻生区役所に相談して、麻生区内の学校だけには配れるように調整しました。あと、我々の実行委員会ウェブサイトも活用して、広報の部分でも支援をしていきます。

内藤委員：9月、10月はしんゆりマルシェもやっていますし、あと、10月12、13日は区民祭りもやっていますので、チラシ配布はどんどんご協力はさせてもらいます。

事務局・金井課長：ありがとうございます。そういったお力も借りながら、コンテンツ自体の充実も図っていただければと思います。

内藤委員：キッズニアじゃないですけども、40社もあるような体験が出来るというのは相当、インパクトはあると思いました。

事務局・金井課長：これを機に、麻生のローカルイベントから全市的にイベントを広げていければ。

内藤委員：北を盛り上げましょうよ。

事務局・金井課長：ぜひ北を盛り上げていきたいと思います。
また、かわさきFMにも出演するという事でしたので、よろしくお願いします。

大西委員：ここまでお子様の参加状況が少ないということは存じ上げなかったので、課題感を持ちました。私自身、子どもが5歳と7歳なので、5歳から参加できるんだっていうのを今知れてうれしかったです。また、周知の仕方ですが、我々かわさきFMも今後もっとご支援して情報発信しなきゃいけないなと思いました。

事務局・金井課長：ありがとうございます。よろしくお願い致します。

浦山委員：川崎子ども会議って別にあるじゃないですか。ちょっと趣旨が少し違うのかもしれないんだけど、せっかく子どもさん何人も集まってらっしゃるので、そういったところも使えるのかなと思いました。

浅岡幹事長：そういうところに参加されているお子さんの知的好奇心は旺盛なんですから、興味あるんだろうなと思います。連携できそうなところは何でもやっていただければと思います。

事務局・金井課長：子どもの権利条例をつくった川崎であるからこそやる取組だというのが提案でもございましたので、担当部署とも相談しながら進めていきたいと思っています。

浅岡幹事長：分かりました。そういう形でお進めいただくということによろしいでしょうか。ありがとうございました。

議案第6号：鉄道事業者等との連携による駅周辺のみどりの創出について

—事務局より資料11を用いて説明

浦山委員：駅に緑をとということですが、それは一時的に飾るといことなのか、その後も置いた植生を維持していくのか、今後はどのようなになるのでしょうか。

事務局・藤井課長：まずは秋の30日間、そして春の23日間という緑化フェア期間中をメインとしてやっていきたいということでお話しさせていただいています。駅では、例えばホーム上だとラッシュ時に色々な課題があるので、緑を置くというのが難しいので、設置場所を調整させていただいております、必ずしも生花だけにこだわらず、本物に見えるような質のいい造花についても検討しながら調整しているところです。

森委員：緑化フェアとの連動というのはすごくいいことだと思うので、予算の有効な使い方がなと思いますが、一方、生花は価格が高く、使える場面は限られると思うので、是非有効に使っていただきたいと思っています。

それと、私どもは今、「ロスフラワー」というエコの取組をやっているのですが、もし生かせるのであれば、予算の有効活用という点からもエコの観点からもご検討いただければと思います。

事務局・藤井課長：はい、会場の方ではロスフラワーも考えております。

浅岡幹事長：他にはいかがでしょうか、よろしいですか。

またこれもご参考にしていただければと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

議案第7号：生田緑地におけるみどりとアートの連携について

—事務局より資料12を用いて説明

浅岡幹事長：ありがとうございます。内容についてのご質問・ご意見と、あと、事業費とい

うお話は今回初めてでしたね。

事務局・岸課長：そうです。

浅岡幹事長：そうすると、概算で、方向性としてご承認いただけるかどうかという、そこを含んだ上でご質問・ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

森委員：一点確認です。説明資料には、「事業費スキーム、委託等」と書かれていますが、事業費の中の1、2、3はいずれも委託のように思えるのですが、それ以外のスキームもあるのでしょうか。

事務局・岸課長：基本的には三点とも委託でございますけれども、①だけが単独で学生の方を募集するというようなことも、最初この資料をつくらせていただいた時にイメージしていたところもございましたので、「等」という形で考えさせていただきたいと思っていたのですが、今のところ、東京藝大さんとか色々な方と、また根本から接していくという形で少しくまきいきそうなので、最終的に委託という形になりました。

森委員：企画自体はとても良いと思います。

浅岡幹事長：委託というと、商業ベースということになると思うのですが、それ以外もあり得るという認識でいいですか。

事務局・岸課長：そうです。説明の中にありましたとおり、直接、デザイナーさんに公募を掛けてというか、いわゆるアルバイトじゃないんですけども、こういうところで少し絵を描いてくれませんかみたいな募集の仕方もあるかなと思っていたんですが、学校さんの方で人数を集めていただけるというお話が決まりましたので、基本的には委託の中で発注したいと思います。

浅岡幹事長：分かりました。他にはいかがでしょうか、ないでしょうか。
では、この内容でお進みいただければと思います。

議案第8号：年度末における新たな100周年イベントの検討について
—事務局より資料13を用いて説明

浅岡幹事長：ありがとうございます。予算はどのくらいの想定でしょうか。

事務局・石井課長：今、予算としては2,000万くらいを想定しています。

浅岡幹事長：前回の幹事会では、予算を来年度に残せるなら残した方がいいのではと意見し

ましたが、予算をすべて使い切るというイメージでしょうか。

事務局・石井課長：本事業の2,000万円を使ったとしても、1,500万円ほどは残る想定です。

浅岡幹事長：イベント内容としてはパレードがいいかどうかということをお悩んでいらっしゃると思いますが、パレードに意味があるのであればいいでしょうし、継続的に残っていくもの、何かそういうシンボリックなものになれば一番いいんですけども、どうなんでしょう、ここで皆さんから、やみくもにアイデアをいただいてもなかなか実現が難しいかと思いますが。

内藤委員：ぱっと聞いたイメージ、本イベントは緑化フェアの締めじゃないけれども、盛り上げるという部分と、パレードとは結び付きにくいんじゃないかなって思いました。せっかく三つのメイン会場が、春にこうやって緑化フェアをやるんですっていう部分の告知じゃないけれども、アナウンスとか、そういうところにつながっていったらいいし、先ほどありました101年目の緑化を、100年だけで終わらせるのではなくて、101年目以降も続けて、緑化に対して川崎市は相当取り組んでいくんですみたいな部分とか、そういう部分に使った方がいいような印象を持ちました。

浦山委員：アイデアとして、例えば緑化フェアの3会場をドローンで空撮して全市の俯瞰的な絵を撮るといってプロと一緒に子どもたちでつくって、その撮った画は全市が360度、くると見えるようになるので、それはそれで防災や観光などそういった形に活かしていけるのではないかなって思いました。

事務局・石井課長：例えば企業の皆様と一緒に、次の100年に向けての未来感を子どもたちに感じさせられるものをパレードにプラスして出来たらいいなっていうのは他の方からもご意見がありましたので、次の100年に向けた未来感が感じられるイベントになるよう検討したいと思います。

大西委員：その場でのイベント開催で人の記憶に残るといって大事。一方で、「残る物」にお金を使うといった投資的な考え方も大事。例えば建物なのか、銅像なのか、分かりませんが、川崎のまちの中で、これからの100年に残っていく何か少しお金を使ってもいいのではないかともしました。

事務局・石井課長：この話からは脱線はしてしまうんですけども、先程の令和7年度以降の予算というところでは記録誌にお金を積んでいったりですとか、先程の音楽プロジェクトの方もハード部分が将来的にも残っていくので、我々も物を残していくところも考えてはいるところです。

ただ、例えば銅像を作るにしても設置場所がなくて、ちょうどいいところが、先程の音楽プロジェクトのステージが一番いいのかなというところです。

森委員：代替案がないので、これよりもこの方がいいんじゃないですかということとは言えませんが、基本的には皆さんのご意見と同じです。お金を使い方には二つの考え方があり、一つは打ち上げ花火的なもの、もう一つが継続的なものです。今回のご提案はその前者であると捉えています。

年度末ということにどこまで意味を感じていただけるかわかりませんが、一年間の締めとして、花火大会の最後のフィナーレのように、何か記憶や印象に残る企画があってもよいのではないかなと思います。ただ、望ましくは翌年度以降の取組につながるきっかけになった方がいいなと思いました。打ち上げ花火で終わってあとに何も残らないというのは寂しいので、緑化フェアの時期に合わせて翌年度以降も何らか続けていけるようなもの、将来の布石となりそうなものを年度の最後に企画するということは、私は賛成です。

浅岡幹事長：さて、どうでしょうか。ここで企画内容は固まらないと思うので、方向性は大体皆さん一致しているとは思いますが、その辺は事務局でもう少し詰めていただければと。ただ、3月に実行するとすると、年内にはもう固めないと間に合わないわけで、次の幹事会は12月あたりを予定していますので、そこで決めると遅いって話になりますよね。今日はどこまで行きましょうか。

内藤委員：考え方や方向性は今日固まったと思うので、事務局や色々な実行委員の方々を含めて、練り上げて、ベストソリューションを決めて、今度、これにしましたということで、承認事項なのかもしれませんが、その時に確認だけするような形に持っていければいいのではないのでしょうか。

小池事務局長：あらためて、予算感も含めて内容をもう一度、今、石井が申したように今検討中のものがございますので、色々いただいた貴重なご意見がありますので、それをもって、更に練り上げて次回に諮らせていただきたいと思います。今日のところは色々な意見をいただけたというところで。

浅岡幹事長：では、その方向でまた練っていただいた上でということで、よろしく願います。

議案第9号：令和5年度事業報告及び収支決算について

—事務局より資料14を用いて説明

浅岡幹事長：ほかに何かございますか。よろしければ、このまま実行委員会に諮らせていただいてよろしいでしょうか。

それでは承認ということでお願い致します。

5 閉会

以上